

天 第八五號

昭和二十一年五月二十六日

東京天文臺長 関口 鯉吉

科學教育局長 清水 謹一 殿

夏時法實施ニ関スル件

①-1

去ル五月二十日聯合軍司令部ヨリ出頭ヲ求メラレ口頭
ヲ以テ夏時法ヲ我國ニ實施スル様希望的意見
ヲ示サレ之ニ対スル本甚至ノ意見ヲ徴セラレタルニ付本
台所書ノ技術ニ関スル限り右實施上格別ノ支障

ナキ旨回答スルト共ニ我國社会ノ特殊事情ニ基キ夏
時法実施ノ必要ヲ認メ難キコト並ニ實施期日ノ前
後ニ於ケル混乱ノ豫想ニ基キ實施ノ好マシカラヌコトヲ開
陳致シ置キタルニ付御承知相成度 右ハ當台報時主
任虎尾技官ヲシテ貴局自然科学研究課平野課
長ニ報告セシメタル次第御承知ノコト、存ズルモ尚參
考ノ爲小官所見ヲ別紙ニ田畧記シテ報告ス

①-2

一夏時法

Summer time

ヲ我國ニ実施スルニ就イテノ意見

(一)

一夏時法ハ夏季一定期日ニ時計ノ針ヲ一定時間ダケ進メ秋一定期日ニ元ニ復スル制度ヲ言フ

英國デハ四月第三土曜日ノ翌日午前二時ニ一時間進メ十月第三土曜日ノ翌日午前二時ニ元ニ復スル工トニナツテ居ル

前回ノ歐洲大戰當時カラ實施サレ諸國デ次チニ之レニナラフヤウニナツタ。現在ハ大多數ノ主要國デ用ヒテ居ルト思フガ実情ハ明確ニ知ラレテ居ナイ

(二)

其目的ハ家庭生活及業務上ノ規程ヲ変更セシテ個人及社会ノ活動時間ヲ夏ダケ前ニズラセルコトヲ可能ナラシムルニ在ル、碎イテ言ハバ早起早寢ヲ促進ス

ルニ在ル

(三) 諸外國主張ノ利益ハ

(a) 夏季ノ早起ハ新鮮ナ空氣ヲ吸ヒ日光ヲ餘分ニ受
ケ衛生的デアル

(b) 將ル時モ早クナリ燈火ヲ節約シ得ル經濟上ノ利
益

(c) ニ就テハ、夏季ノ早起ハ多年我國民ノ習慣ニ依リ、自
然ニ実行サレテ居ルリ特別ノ規程ヲ要シナイ。ノミナ
ラズ冬夏季別々ノ勤務時間ガ支障ナク行ハレテ
居ル爲、夏季ニ早起ガ自ラ勵行サレ、夏季時法ノ必要
ヲ見ナイ。

(b) ニ就イテハ日本デハ冬ハ寒帶性、夏季ハ熱帶性且海洋

性ノ氣候デ政令ノ文化國家ニ其類ヲ見ナイ特異性ヲ
有スルノデ「利益」ハ無イト思フ、即夏季殊ニ七、八月ニ
ハ蒸熱甚カダシク相當夜更デカラデナクハ寢ニ就
カレナイカラ夏時法ニ依ル燈火ノ節約ハ効果僅少ト
思フ。故ニ日本ニ限ツテ政令ノ時間制ヲ蹈襲スル
コトノ無意味ナルコトヲ強調セネバナラス

(四)

旧来ノ勤務制デハ始業時間ヲ夏ハ一時間進メ、
又或ル方面デハ終業時モ相當遅ラセ、カクシテ夏の
季ダケハ餘分ニ働カセル結果ニナツテ居タ。故ニ夏
時法ヲ用ヒルダケテ勤務時間ノ規程ヲ変ヘテケバ
夏季ノ勤務時間ハ旧来ニ比シ一時間以上短縮シ業
務実績ハ一割以上減少スル。一年ヲ通シテノ平均

デ五%ノ減少トナリ經濟的ニ見テ莫大ノ損失トナル。日本人ハ働キ方が欧米人ト異ルカラ餘分ニ働クコトニ依ツテ実績ヲアゲル方式ヲ俄カニ喜ブテルコトハ出来ナイト思フ

要スルニ季節ニ應ジテ勤勞時ヲ増減ヲナスコトハ是非共必要デアリ。夏時法デハ其ノ目的ヲ達シ兼ねルノデ旧來季節別勤勞ノ時日制ノ維持ヲ必要トスル。ソレハ多年ノ社會慣習ニ基ク所デアリ同時ニ我國固有ノ風土環境ノ支配カニ依ル必然ノ結果デアルカラ之ヲ無視シテ改ムルコトハ不可デアル

(五) 家庭生活ニ於テハ譬へ夏時法が行ハル、ニ至リテモ時計面ノ時間タケテ行動セズ旧制ノ時間ニ換算

シテ行動スルモノが多イト思フ、陽曆が一般ニ行ハシテ
数十年ヲ經タル今日モナホ農家ノ行事ハ陰曆ニ
依ツテ行ハシテ居ルヲ見テモ明ラカデアル。夏時
法ハ單ニニ重生活ヲ國民ニ強ヒル結果トナリ生
活ノ複雜化ヲ誘致スルニ止マルデアロウ。